

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稲の初期生育状況（6月25日現在）について

発信日：平成26年6月27日

1 内容

- ・ 田植え後、気温は平年並みからやや高く、日照時間は6月中旬までは平年並みからやや多くなっている。降水量は6月6日から7日にかけて大雨となり、平年よりかなり多くなったが、6月中旬以降は平年より少ない傾向である。なお、梅雨入りは平年より3日、前年より5日早い6月5日頃となっている。
- ・ 田植え後の生育は、ほぼ平年並みで推移している。
- ・ 草丈は平年よりやや低く、茎数はキヌヒカリでは平年並み、さとじまんでは平年並みからやや多い傾向で、葉色は平年並みからやや淡い傾向にある。

2 今後の作業

今後の水稲の作業については、次の点に留意して実施する。

- (1) 活着後は、健全な水稲の生育を促進するため、間断灌水を行う。ただし、除草剤を処理した場合には、処理後の止水期間や残効を考慮する。

また、気温や水温が低い日が続く場合は、水温を確保する水管理（掛け流しを避ける）を行うなど、気象の変化にあわせた水管理に努める。

気象庁が6月26日に発表した、関東甲信地方の1か月予報によると、平年に比べ曇りや雨の日が多く、降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みか少ない見込みで、気温は平年並みとなっている。

- (2) 本年は、県内全域で藻類の発生が目立っている。藻類が多発すると、地温の低下等により水稲の生育が抑制されることがあるので、一時的に水を落としたり、藻類に登録がある除草剤（モゲトン粒剤）を処理する。

また、6月6日から7日にかけての大雨やその後の局地的な大雨により、用水がオーバーフローした場合には、除草剤の効果が低下していることが考えられ、雑草が残る可能性がある。さらに、クログワイやオモダカ等は、初期剤や初中期一発剤のみでは防除は困難であるので、こうした場合には、中期剤、後期剤を適期に処理し、雑草防除に努める。

中期剤を湛水処理する場合は、水尻をしっかりとふさぎ、大雨によるオーバーフローに注意するとともに、7日以上止め水にする。

バサグラン粒剤・液剤、ワイドアタックSC、クリンチャーバスME液剤を使用する場合は、水を落として（落水～ごく浅く湛水）、雑草の葉に薬剤が直接かかるように処理し、処理後3日間落水状態を保った後、入水する。

- (3) 湿田や深植え、除草剤の薬害等により水稲の初期生育が遅れる場合があるが、生育促進を目的とした追肥は行わない。

こうした場合の生育の遅れは、根の活性が弱く、肥料を吸収できないことによるためであり、基肥の肥料分は残っている。また、初期の追肥は過剰生育や倒伏の原因になりやすい。

(4) 病害虫は、縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の多発が予想されるため、2月27日に病害虫発生予察注意報が発表されている。

早期植えの一部では、ヒメトビウンカの発生が認められており、縞葉枯病が発生している水田がある。今後、発生が多くなると予想されるため、箱施薬剤を施用していない場合には本田防除を実施する。箱施薬剤を施用している場合でも、今後の情報等に注意する。

また、水田内の余り苗は、病害虫の発生源となるため、早急に除去する。

【参考】

現時点の水稻の生育や天候では今後の予測はできないが、平年値を次に示す。

表 農業技術センター（平塚市）での平年値（概ねの目安）

作期	品種名	中干し時期	穂ばらみ期	出穂期
5月下旬植	キヌヒカリ	7月7日頃	7月22日～8月6日頃	8月6日
	さとじまん	7月15日頃	7月30日～8月14日頃	8月14日
6月上旬植	キヌヒカリ	7月10日頃	7月25日～8月9日頃	8月9日
	さとじまん	7月18日頃	8月2日～17日頃	8月17日
6月中旬植	キヌヒカリ	7月16日頃	7月31日～15日頃	8月15日
	さとじまん	7月21日頃	8月5日～20日頃	8月20日

- ・ 中干しは、好天の場合は3～5日程度と短く、降雨が多い場合は5～7日程度と長くする。大きな切れ目ができるような強い中干しを行うと、水稻の根を切断し、後半の生育を抑制するので強い中干しはしない。
- ・ 穂ばらみ期は、出穂期約15日前～出穂期の期間をいう。水稻が最も水分を必要とする時期であるため、水田の水が切れないように注意する。

連絡先

農業技術センター普及指導部作物加工課

平塚市上吉沢1617

TEL：0463-58-0333 内線381～384

FAX：0463-58-4254